

プール水検査

北区学校薬剤師会

1. 最初に設備等点検します。
2. 設置場所が屋内か屋外か、校舎の屋上か。腰洗い槽の設備の有無と使用の有無。
3. プール循環ろ過機に入れる消毒薬の名前および剤型。ろ過機使用なら自動注入。
4. シャワー設備の有無及び冷水か温水か。プール日誌がプールサイドにあり記入があるか無いか。
5. 日常点検をしているか。循環ろ過装置を 24 時間稼働させているか。ろ過設備のろ剤が砂・珪藻土・フィルターか確認して逆流洗浄やフィルター交換をしているか確認する。
6. 屋内プールの場合検知管で二酸化炭素及び塩素ガス濃度測定、照度計で水平面照度を測定。
7. 1 月 1 回プール水点検 6 月から 9 月の間最大 3 回程度実施。
8. 測定日時・天気・気温・水温(ほとんどの場合水槽内部に水温計がつるしてあります)を見る。
9. 水槽内の透明度の良し悪し・底の沈殿物の有無・水表面の浮遊物の有無を見る。
10. ろ過機付近に 1 回の消毒薬投入量が記載されているので確認する、プール日誌に消毒薬使用量が記載されている事もあり。その数字を表に記入する。
11. 入泳者数は 1 時間目ならその時の入泳者数を記入。2 時間目なら 1 時間目と 2 時間目の入泳者数の合計人数を書く。3 時間目以降も同様。
12. プール水の遊離残留塩素濃度をスタート側とゴール側の斜め対角線上で 3 点水面下 20 cm の所から採水測定。0.4 mg/L 以上なければなりません。
13. 採水瓶で採水する時には瓶の口を触らないようにし、瓶の口を下向きに入れ 20 cm の所で瓶を上向きにしてプール水を溢れる位入れ空気が入らないように蓋をする。
14. 採水瓶を蓋をしたまま入れプール水表面下 20 cm の所で蓋を外してプール水を採水蓋しても可。
15. 腰洗い槽を使用している学校は高濃度遊離残留塩素濃度計や検査紙で測定。なければ希釈して測定。濃度は 50 mg/L～100 mg/L が望ましい。排水は希釈して流すよう指導する。
16. プール水の水素イオン濃度 Ph はプールサイドの電位差式器械を借りて測定。まず水道水で 7 となるか確認する。先端が十分濡れていないと正しい数値がでない。学校には校正用試薬があるので試薬瓶表面の数字が出るか確認する。測定所と箇所は遊離残留塩素濃度と同じ。
17. 採水したプール水は薬業会館 3 階に持参し冷蔵庫内の大腸菌検査用培地と一般生菌用培地に各 1ml ずつ机上のスポイトで入れる。前後 2 本 2 枚で計 4 枚を重ねて学校名を記入してふ卵器に置く。
18. 大腸菌検査用培地は 24 時間、一般生菌用培地は 48 時間培養。コロニー数と色で判定。
19. 総トリハロメタンと循環ろ過機内の濁度は業者が検査するので学校から結果をもらい助言・指導する。
20. 熱中症対策として気温と水温の合計が 65℃を超える場合はプール指導実施の可否を検討する。
21. プールサイドの直射日光が当たらない場所の気温が 35℃以上、暑さ指数 WBGT(湿球黒球温度 31 以上は運動原則禁止。WBGT 28 以上は厳重警戒。WBGT は簡易測定器または環境省のホームページを参考にして下さい。WBGT 測定器は直射日光が当たる場所に設置されています。
22. 低温の場合、水温 23℃以上。気温が水温を上回る事。気温と水温の合計が 45℃または 50℃以上などの条件有。プール指導時間減少傾向。学校に実施を確認して出勤して下さい。